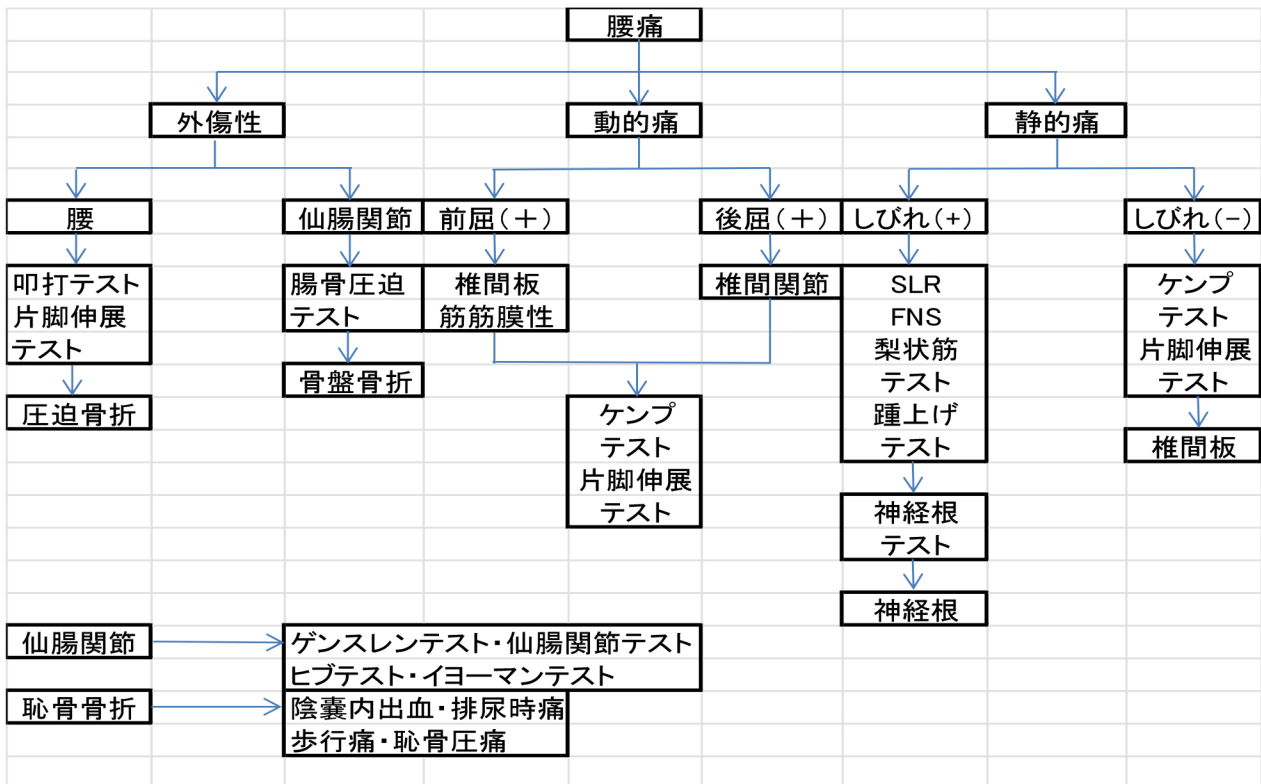


1 . 腰疾患マニュアル 2月勉強会



・レッドフラッグ

- 発症年齢が 20 歳未満か 55 歳超
- 最近の激しい外傷歴 (高所からの転落、交通事故など)
- 進行性の絶え間ない痛み (夜間痛、楽な姿勢がない、動作と無関係)
- 胸部痛
- 悪性腫瘍の病歴
- 長期間にわたる副腎皮質ホルモン (ステロイド剤) の使用歴
- 非合法薬物の静脈注射、免疫抑制剤の使用、HIV ポジティブ
- 全般的な体調不良
- 原因不明の体重減少
- 腰部の強い屈曲制限の持続

□脊椎叩打痛

□身体の変形

□発熱

□膀胱直腸障害とサドル麻痺

☆最初腰痛患者を診断する際、急性、慢性のどちらにおいても重大な脊椎病変

(悪性腫瘍、脊椎感染症、骨折、解離性大動脈瘤、強直性脊椎炎、馬尾症候群など)の可能性があるかチェックするがその際に「レッドフラッグ」を使う

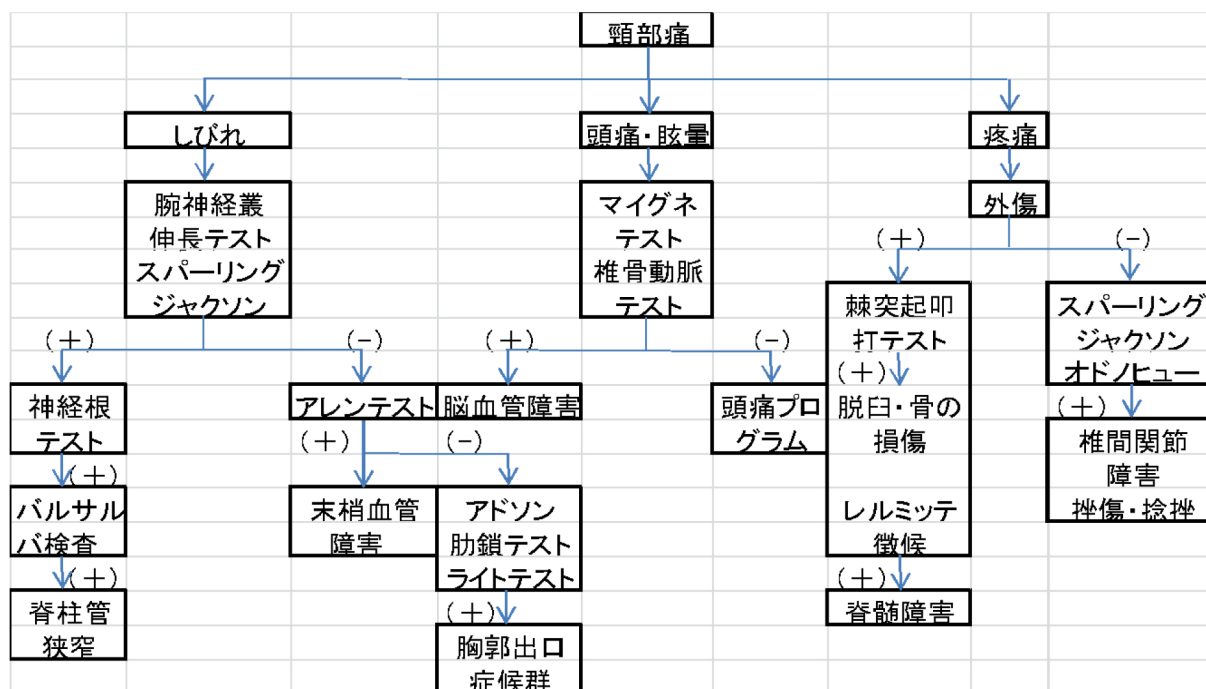
治療

・レッドフラッグの疑いのない場合は 1 週間は圧部にパッド対応。

・1年以上の先生は初回から M 式施術にて対応す

・座れるようになったら問診対応。問診は早ければ早い程良い。

2 . 頸疾患マニュアル R5 年 3 月



レッドフラッグ

・慢性硬膜外血腫